〈漁業士活用事業〉

# モズクの種越夏保存

宮古支庁農林水産振興課
中　田　祐　二

1．交流年月日
平成10年８月20日

2．交流先
本部町漁協・北部漁業士会

3．交流漁業士
武島　秀忠・儀保　正司

4．目　的
宮古地域では、モズクは基幹産業として重要な位置づけをされている。中でも平良市漁協は特に力を入れており、モズクの１次加工所を作り、安定生産を目指している。しかし、モズクの種保存に関しては平良市栽培漁業センターが越夏保存を行っているのみで、漁協・漁業者の取り組みとしては他地域に後れをとっている。そこで今回は、モズクの越夏保存についての技術を高めるために、モズクの種越夏保存の先進地である本部町の漁業士会と交流会を持った。

5．経　過
平成10年８月20日、水産業改良普及所のクルマを使って午前６：40に糸満を出発し、午前９：00に水産業改良普及所本部駐在所に到着する。同所で本部駐在の近藤普及員と合流し、我部漁業士宅に行った。

我部漁業士は個人でモズク種の保存施設を作り平成８年度から稼働させている。施設は12から13坪あり、コンクリート製、屋根はトタンであった。屋根の上には海水をストックするためのタンクが設置されていた。比較的簡易な施設であるが、個人でこれだけのものを作っていることに一同驚く。

建物の中はモズクの種付け用の水槽が二面と種保存用の一畳程度の部屋があり、24℃に保たれ、種の越夏保存が行われていた。施設全体の制作費は材料費で80万程度。人件費は自分の家族で作ったので、かかっていないとの事だった。また、培養に必要なフラスコ類は値段が高く、梅酒などを作るときに用いる瓶を多用しているとのことであった。

次に本部町漁協に場所を移し、漁協の種付け施設を視察した。我部漁業士も網の半数はこちらで種付けを行うとのことであった。

10：30に本部漁協で技術交流会を行った。漁協の真栄田参事も同席し本部町漁協の概要や、前年度のモズク生産の現状、カツオ漁の現状などについて話をした。

その中で、平良市で問題になっている網に種がのこらない事例は、モズクの種によく似た藻類の繁殖による可能性があるとの指摘があった。また宮古では母藻での種付けが中心だが、これからはバイオの技術を使って培養した種を使わないと１枚当たりの収穫量に差が出てくるであろうとの指摘があった。

所　感
今回の視察で、モズクの種保存施設視察で、比較的簡単にこういった施設を導入できると確信した。

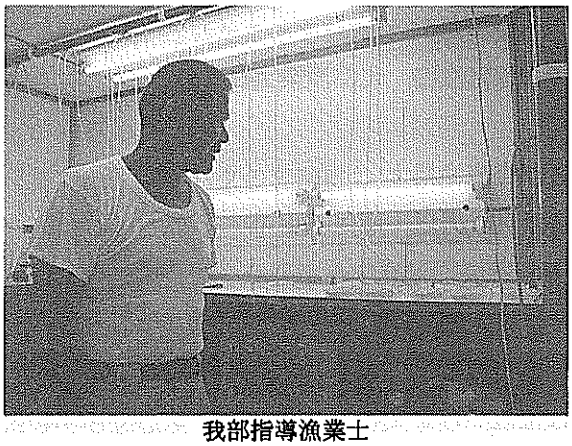
平成10年３月現在で、２名の漁業者が自宅での種保存に挑戦している。また平良市漁協も漁協施設内にモズクの種保存施設を作り種越夏

保存を開始している。今後は種の分離を平良市漁協と普及員が協力して行い、各漁業者に種を配布し漁業者単位で種を越夏保存する体制を作りたい。

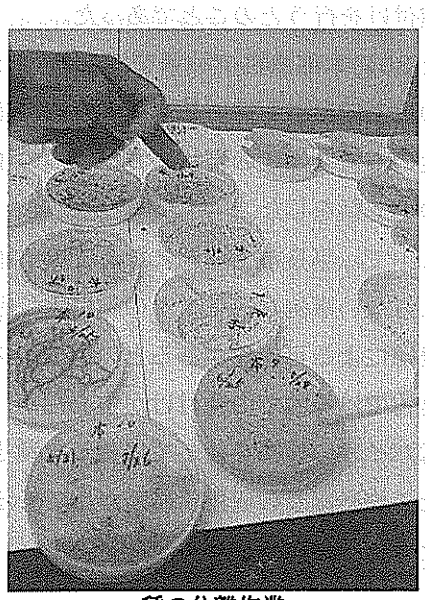
なお、多忙な中今回の交流会を快く受け入れていただいた我部指導漁業士、真栄田参事、本部漁協の皆様には、心から感謝申し上げます。

我部指導漁業士（本部町漁協）の
モズク種越夏保存・種付け施設

施設内の種越夏保存室約２畳程度



我部指導漁業士



種の分離作業

種越夏保存についての交流会（本部町漁協）